

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神埼市立千代田西部小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究を核とし、全職員による研究授業を行い、「わかる」「できる」を実感できる授業づくりを進めることができた。学力状況調査などからは、少しずつその成果があらわれてきているが、学年によって差がある。 ・落ち着いた生活態度や学習環境の改善が図られ、高学年を中心に児童自らの規範意識が醸成されてきた。一方でけがによる保健室への来室者が前年度より増加し、自転車のヘルメットの着用率が100%を達成しなかった。

2 学校教育目標	「豊かな心をもち 個性と主体性に満ち 逞しく生きる」児童の育成 ～自分を愛し、友だちを愛し、学校・地域を愛する西部小の子～
----------	--

3 本年度の重点目標	・校内研究を核とした、児童同士がつながり学び合う授業改善の継続、及び自己の学びを視点をもち振り返りを出せる児童の育成の推進 ・健康で安全な生活を意識させるための学級活動等の充実 ・支援を要する児童への対応や指導体制の確立、及び特別支援教育の充実 ・授業実践において常に課題意識を持ち、学び続ける教師集団の体制づくり ・一人一台端末（児童用タブレット）の効果的な活用推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○隙山メソッドによる徹底反復学習による基礎的基本的学習の定着 ○「わかる」「できる」を実感し、学びを楽しむ授業づくりの推進	○百ます計算で学年目標達成率80%以上 ○当該学年の漢字習得率80%以上 ○アンケートにて「授業で学習したことがわかる」と回答した児童85%以上 ○算数科での単元テスト、知識・技能の観点においての得点率80%以上 ○家庭での学習時間において学年目標達成率80%以上 ○アンケートにて「個人の課題を意図して授業を行い授業改善ができた」と回答した教職員80%以上	・週3回の隙山メソッドによるスキルの実施 ・四則計算の各学年の達成目標と個人の達成目標を決め、計測日で達成状況を把握する ・家庭学習でも計算の反復練習に取り組む ・スキル参観を行い、教職員間での共通理解と児童の意欲向上を図る ・全員研究授業による実践の共有化 ・授業改善のための個人の課題を設定し、日々の実践に取り組む ・授業と連動した家庭学習の充実を図り、児童の理解の状況を即時把握し、フィードバックする			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、地帯への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○人権に関するアンケートにて肯定的な回答をした児童87%以上 ○児童アンケートにて「身近にできるボランティアや家の手伝いをしている」と回答をした児童90%以上 ○アンケートにていじめ防止・対応について、組織的な対応ができていてと回答した教員90%以上	・平和集会及び人権集会・感謝の会の実施 ・児童会活動を主体とした活動の推進 ・2回児童アンケートを実施し、実施を把握する。 ・生活チェック表等を利用したボランティア活動や家の手伝いの推進 ・毎月心のアンケートを実施。7月、12月は異様一様式のいじめアンケートを実施 ・アンケートと連動した担任や管理職及びSC等と連携した児童との関わり推進 ・教育相談を体面を月に一度実施 ・ケース会議の実施（随時）							〈心づくり部〉 ・人権・平和担当 ・道徳教育担当
●健康・体づくり	●「健康に良い食事をしている」児童生徒85%以上 ○食に関するアンケートにて、「朝ごはんを毎日食べている」「苦手な物でも食べようとしている」と回答した児童85%以上 ○全校での給食残菜率2%以下	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と思う児童生徒85%以上 ○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・各学期で、食に関するアンケートを実施することで、食への自己意識を振り返り、食生活の改善の機会を設けたりする ・様々な教科で、食に関する指導を行う。 ・給食委員会を中心に、給食集会や給食週間でのイベントを企画することで、食への関心を高めさせる ・交通安全教室や地区児童会を実施することで、児童の安全意識の向上を図る。 ・保護者を発行したり、各学級で正しい運動場での遊び方を指導したりして、怪我等を呼びかける ・毎月、ヘルメットの着用や防犯ブザー所持のアンケートを実施することで、安全意識を高める機会を設ける。また、事故防止のために、適宜児童へ呼びかけたり、学級通信等で保護者へ啓発したりする							〈体づくり部〉
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●職員全体の時間外在校時間平均35時間以下 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●職員全体の時間外在校時間平均35時間以下 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定 ・共通理解、共通意識を可能にする掲示物の活用 ・会議資料等に所要時間を明記する。 ・目標退勤時刻を過ぎず残業する職員は自己申告をする ・長期休業中の研修を計画的に実施することで、年休を取得しやすくする							教頭
●特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育に関する専門性と意欲の向上	○アンケートにて特別支援教育に関する理解が深まったと回答した教員90%	・特別支援教育に関する研修会の実施(年2回) ・情報共有の場を作り、個々に応じた支援のあり方を確認し、日々の指導や支援に生かす							特別支援教育主任 特別支援教育コーディネーター 特別支援教室担任

(2)本年度重点的に取り組む自主評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○児童が持味を生かしながら、自律・自走する集団へ向かうための教育の推進	○学校生活に目標をもち、自分で考え行動できる児童の育成	○アンケートにて「自分の目標をもって学校生活を送っている」と回答した児童90%以上 ○協力・助け合いながら楽しく活動に取り組んだ児童の割合90%以上	・教員が学習面、生活面のさまざまなルールを共有し、指導に関する共通実践の徹底と継続を図る ・授業や学校行事等で、子供同士の関わる場面を意図的に仕組む			
○教職員の資質向上、授業力向上	○指導力・実践力の向上	○校内研究をとおして学習指導について研修を深めている教員90%以上 ○積極的に研修会等に参加し、実践的な指導力の向上に努めているという教員90%以上	・授業研究会を中心とした校内研究の充実 ・服務、学習指導、特別支援教育に関する研修の実施 ・自主研修会を周知するなど興味・関心のある研修への参加を促す							・教頭、教務、各担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------